

7 月



とせの葉

きらきら

のきばに

ゆれる

お星さま

きらきら

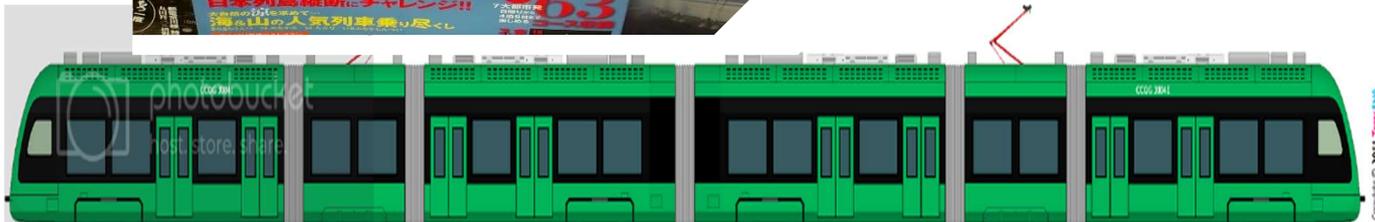
金銀

すなごい



旅のつばくろ 沢木耕太郎

新潮社



旅は楽しい。特に個人旅行は特に印象深く心に残る。出発前に資料集めプラン作りで楽しみ、旅行中は日常を離れたドキドキ感を味わう。

帰宅しては旅の余韻を楽しめる。そして旅行記を書きながらもう一度旅をする。

何年かたって思いがけず見つけた旅日記。思い出の中で旅の途中で出会った人々や風景に再会する楽しみ。

旅は貴重な人生の一頁としていつまでも残る自分史だ。

この本は旅人、沢木耕太郎の自分史の時々のページを随筆にまとめてあり、興味深い土地や風習が旅好きには大変面白く読める。



探さないでください。



旅に出ます。

かたみとして
何が残るを
春は花
山ほととぎす
秋はもみじは
良寛詠

読後感想

★初めての駅に降り立ち、吉村昭の記念館に行こうと日暮里から「ゆいの森図書館」まで歩いた話。地元の馴染みの場所の足取りに親しみを感じた。

★「情熱についてのレッスン」では、永六輔とのインタビューに学ぶ。

仕事でもやる気のない人には、本気で教えようとは思わない。こちらが情熱を持って事に当れば人を動かし、難しい現実をも動かす事が出来るという。

★金沢寺町のゆかしさや、予定を立てない旅で思わぬ楽しさに出会った宇都宮線の話も面白かった。 沢木さんは、夕陽が沈む前の山や海とのコントラストが素晴らしく大好きだそう。グループでも「夕陽に映える雲に胸がしめつけられる」等、朝陽より夕陽に心惹かれる人が多かった。夕陽には詩情が感じられる。

★函館 河があり、古い建物がそれにちょっと洒落た洋風の建物、名産のガラス工場、聞こえてくる英語、中国語、韓国語・・・昼間はごった返す観光客が夜になるとパッタリ居なくなり人気のない街に変わる点もベネチアとそっくりだ。

★軽井沢 雲場池の紅葉 ★鎌倉 古今の作家、画家、武人の足跡

★鳥海山を眺める山形県の遊佐温泉 朝日を浴びて輝く山 温泉はただの湯ではない。日本の地価のエネルギーを溜めた地の精が宿った魔法の水だ。

★太宰治の「津軽」で幼い頃の子守だったタケと会うために最後に訪れる小泊。小学校の運動会を見に行っていたタケとの対面シーンは物語のクライマックス。

★あるボクサーの死の間際の句は、まさにダンディズムの極致。演技を終わり花道を引き揚げる三度笠の渡世人になぞらえでもするかの様だ。

花吹雪 ごめんなすって 急ぎ旅

九十歳。 何がめでたい 佐藤愛子 小学館

老いの夢 二つの誕生日 我ながら不気味な話
過ぎたるは及ばざるが如し 子供のキモチは 妄想作家
お地蔵さんの申し子 覚悟のし方 思い出のドロボー
悔恨の記 平和の落とし穴 いちいちうるせえ
答えは見つからない テレビの魔力 私なりの苦労
他 十四編



あゝ、長生きする事は全くめんどくさい。耳も眼も膝もガクガク。 そのうち
歯も抜けるだろう。脳みそも減ってきた。されど私は生きている。
全くしつこいねえ～。 だけど人間は「のんびりしよう」なんて考えたら駄目だ
という事が九十歳を過ぎて良くわかった。

ファイトー!!



読後感想

- ✿ ユーモアがあって読みやすく、日常誰でも経験しそうな話題で面白い。
- ✿ 作者はよく怒ってばかりいるが、実は怒りの原因が自分にあるのを知って、振り上げたこぶしのおさめ方が分からずスゴスゴ引き下がる。そこがおかしい。
愛子先生、本領発揮です。
- ✿ 若者は夢と未来に向かって前進する。 老人の前進は死に向かう。
- ✿ 同じ老年同志の茶飲み話で「我々の夢は何だろう？」と言う事になった。
「私の夢はポックリ死ぬこと」 九十歳になってわかる笑えぬ夢だろうか？
- ✿ 歯に衣着せぬ語り口、本音の連発で同感する文章が綴られていてスカッとした。
- ✿ 本当は体も気持ちも弱って来るし、めでたくもないのが本音だが、こんな元気の
良い女性に出会うとたとえ書物でも励まされる。
- ✿ 男性の感想 女性の忍耐力やたくましさを感じる。女性はすごい！！

ふう…
一休み。